審 査 結 果 の 要 旨

報告番号	甲　第 1178 号	氏名	堤　千代
審査担当者	主　査	柳川　堯	(印)
	副主査	犬塚裕樹	(印)
	副主査	足達　寿	(印)

主論文題目：
Regular tooth brushing is associated with a decreased risk of metabolic syndrome according to a medical check-up database
(健診データによる口腔ケア行動とメタボリックシンドロームの関連)

審査結果の要旨（意見）

2004～2006 年に定期健康診断を受けた 40 歳～59 歳の男女 12,548 人(男:7,703, 女:4,845)を対象にして歯磨きの回数とメタボリックシンドローム(MetS)の関連性を解析して男女ともに歯磨きの回数はMetSと有意な負の関連性をもち，オッズ比は0.6～0.4であることを示した論文である．調査された生活行動に関連する 127 項目の多くが歯磨きの回数および MetS と関連性をもっておりこれらの関連性が歯磨きの回数と MetS の関連性に見せかけの関連性を与える可能性を持っている．本論文では，127 項目の中から歯磨きと MetS の両者に関連した項目を 50 個選択し交絡因子の候補とするなど巧妙な統計手法を工夫して見せかけの関連性が生じないよう配慮している．博士学位のレベルに達する論文であると判定した．

論文要旨

口腔衛生とメタボリックシンドローム（以下、Mets）は、歯周病と心血管疾患リスクの関連だけでなく、歯磨きが心血管疾患のリスクを下げることが報告されている。我々は、歯磨きと心血管疾患の前駆状態である Mets との関連に着目し、健診機関を利用した 30～59 歳の 12548 人の健診データを用いて調査を行った。多くのライフスタイルが歯磨きの頻度と Mets の両方に関連しており、潜在的な交絡因子と考えられた。ロジスティック回帰モデルによって 127 の変数リストを作成し、歯磨きと Mets の両方に関連する変数を男女それぞれに選択し、さらに、共線性の問題を回避するために、最終的な交絡変数は主成分分析を用いて選択した。選択された交絡因子および年齢を調整した Mets に対する歯磨きの、性別ごとの補正オッズ比(95%信頼区間)は、歯磨きの頻度が上昇するごとに、男性 0.57 (0.48-0.81)、0.50 (0.35-0.71)、0.42 (0.29-0.61)であり、女性 0.65 (0.48-0.87)、0.44 (:0.32-0.62)と減少した。歯磨きを中心とした口腔ケア行動は、Mets の予防に関わる可能性のある因子であることが示唆された。